

# 平成 28 年度浙江省友好交流員レポート（12 月）

浙江省友好交流員 三澤拓巳

9 月から始まった浙江省友好交流員としての浙江大学留学も早くも 12 月を迎えました。始まった当初はとても不安でしたが、気づいたら半分が経過していました。他の交流員の方や他国のクラスメイトなどと協力しながら、生活することで何とか乗り切ることができています。最近になり、ようやく大学の先生方ではない一般の中国人の中国語も聞き取れるようになり、中国語能力の向上を感じています。大学の先生方は分かりやすい中国語を話してくれるので授業は理解できますが、一般の中国人の話す中国語は速く「なまり」や「方言」、「くせ」などがあるため最初の頃は全く聞き取れませんでした。同時に、3~4 か月が経過し、ようやく耳が慣れてきたということの証拠でもあるので語学学習の難しさも感じています。

杭州市の 12 月は 11 月と変わらず寒いです。栃木県とは若干季節ごとの気温が異なるため、紅葉が少し遅めで杭州市では 11 月下旬から 12 月上旬が紅葉の一番のピークに感じました。12 月中旬以降は栃木県と同じく樹木は落葉し、風が冷たくなり始めます。また杭州市は中国の中では中部~南部の方にあるため、暖房システム（中国語で「暖气」）があまり採用されていないため、厳しい冬を迎えそうです（北京などの北部の町は「暖气」が発展しているため、屋内は比較的暖かいそうです）。

今回のレポートは 12 月ということもあり「クリスマス」をテーマにします。まずクリスマスイヴは「平安夜 (ping an ye)」といいます。「平安夜」には大切な人にリンゴを贈るそうです。なぜなら、リンゴは中国語で「苹果 (ping guo)」で「平」と「苹」の発音が同じであり、贈った相手の幸せと平和・平安の願いを込めているからだそうです。このように中国には漢字や発音の類似性を利用した贈り物が他にも多く存在します（しかし今回は紹介を省きます）。このような縁起担ぎなどから異国の文化を理解・研究することも大変興味深いと感じました。

次にクリスマスです。クリスマスは中国語で「圣诞节 (sheng dan jie)」といいます。元々中国にはクリスマスを過ごす文化がなく、今なお日本ほど華やかに過ごす風潮はありません。そのため、街中もあまり普段と変わらず落ち着いています。しかし、最近になり若い人の間ではクリスマスを楽しく過ごす文化が表れ

始めているそうです。欧米や日本のようにクリスマス独特の楽しい雰囲気味わい、子ども達はお父さん・お母さんからのプレゼントを楽しみにしているそうです。今後は中国でもクリスマスを過ごす文化が浸透していくのではないかと考えます。

以下には今月の出来事を簡単に紹介します。



左の写真は交流員の山田さんと町中を散歩しているときに発見しました。日本料理屋のお店なのですが、若干文字の区切るところが違います。日本人が見ると、とても変な感じがしますが、中国人にとっては日本語が書いてあるだけで日本料理を扱っているというアピールになるため、細かいことは気にしないということですね。



この日は再び西湖に行きました。先月とは違い、樹木は赤や黄色に色づきとても美しかったです。季節によって様子を変える西湖は何回行っても飽きることはありません。冬や雪が降った後の西湖も美しいので楽しみです。



クラスメイトと共に山登りに行きました。山といっても、大学のキャンパス内から登り始めるため散歩感覚で行くことができます。天気にも恵まれ綺麗でした。高い場所から見ると杭州市の発展の様子がよく分かりました。空気はあまりきれいでなかったためか遠くまでは見渡せませんでした。



この日は浙江大学紫金港キャンパスで行われた、留学生たちによる文化祭に参加してきました。各国の留学生が自国の食べ物や衣装などを紹介していました。日本人留学生もブースを出展していました。日本のブースには常に人が集まり、人気でした。私も友達と様々な国の食べ物を食べました。一度にこんなにも多くの国の料理を食べられる機会はなかなかないので貴重な体験になりました。